

明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた素晴らしい年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年は、長く猛威を振るってきた新型コロナウイルスが落ち着き、感染症法上5類への移行で、ビヨンドコロナのステージへと大きく転換しました。

多くのイベントが復活し、インバウンドを含む観光客の増加を通じて、まさに賑わいが戻ってきたことを実感したところです。さらに年の終盤には、地元プロスポーツチームの勝利、活躍により、その活気は一段と盛り上がりを見せました。

一方で、様々な価格高騰や深刻な人手不足が企業経営の大きな足かせとなり、また中国経済の減速、世界経済の分断・紛争により、内外とも極めて先行き不透明な環境にあることも事実です。

こうした中、私は、中小企業支援を1丁目1番地とし、あわせて神戸の将来に向けた産業政策・都市政策の実行を通じて地域経済の発展を図るべく、3つの分野で商工会議所の活動を進めてまいります。

第一は、「**中小企業の持続的成長への支援**」です。

多くの中小企業は、原材料や資源価格・労務費の高騰、長引く円安の影響下において、価格転嫁が十分に追いつかず、経営が圧迫される状況が続いています。加えて、最大の問題は人手不足です。あらゆる業界で深刻さを増し、それによる倒産も顕在化しています。物流・建設業界における2024年問題も拍車をかけることが懸念されます。

商工会議所は、これまでも伴走型の経営支援、事業再生・事業承継の総合的なサポート事業を講じてきましたが、今後、特に若者や副業・兼業、外国人材を含む多様な人材確保の支援、人件費を含む価格転嫁の後押し、現場実践型のデジタル化推進など、人手不足対策、生産性向上に向けた支援に一段と注力してまいります。

その中で、神戸の産業の魅力を若年層に関心を持ってもらうことを重視し、現場の工場などを“開き、見せる、体験してもらう”オープンファクトリーも神戸市と共同で実施します。地場の産業の持つ技術力や現場をダイレクトに体感してもらうことで、将来の担い手確保や中小企業の魅力発信に繋がっていきます。

第二は、「**新たな企業価値創造**」です。

地域の企業や産業が成長するには、先に述べた取り組みと同時に、従来の延長線上ではない、「変化・変革」に挑むことが必要です。

コロナ禍による価値観の変化を捉え、あるいはSDGsへの貢献、カーボンニュートラル実現に向けて、新事業展開に果敢に取り組む企業も少なくありません。そうして生み出した成果を次の投資や賃金、消費に繋ぐ好循環を創り出していくことこそが成長の源泉となります。

これは必ずしも単独の企業で成せるものとは限らず、複数の企業連携や、神戸の誇る最先端の産業集積と相乗効果を生み出していくことも重要となります。

神戸では、構想開始から25年を経て、約370の企業などが集積する、国内最大級のバイオメディカルクラスター「神戸医療産業都市」が発展してきました。アカデミアの

シーズや医療機器の製品化で成果が生まれつつありますが、その裾野を広げるためには、産業化支援の機能をより一段と高める必要があります。

また、同じくポートアイランドを中心に進展する「水素スマートシティ神戸構想」も具現化のステージに入ります。昨年秋には、米国マイクロソフト社による、AIなど最新のデジタル技術の開発・共創拠点が日本で初めて神戸に開設され、DX推進の成長エンジンになることが期待されます。

こうしたプロジェクトは、神戸の産業を一步先へと成長させる重要なチャンスになります。さらに成長分野の産業集積が進めば、関連するスタートアップや外資系企業の誘致、多様な人材を呼び込むことに繋がります。関係機関と緊密な連携のもと、これらの取り組みを新たな企業価値創造に繋がってまいります。

第三は、「**万博、空港国際化に向けた交流促進・都市機能強化**」です。

将来の神戸に思いをはせた時、大きな節目となるのが、やはり2025年の大阪・関西万博であり、神戸空港の国内線増便、国際チャーター便の運用開始です。その前哨戦となる今年は勝負の年となります。春には、神戸ポートタワーのリニューアル、世界パラ陸上競技選手権大会の開催、神戸須磨シーワールドの開業など、神戸の魅力向上に繋がる新たな動きが続きます。この絶好の機会を捉え、その魅力を内外にいかにか力強く発信するかが大切です。

神戸商工会議所では、万博特別委員会での議論を経て、ビジネス交流を軸に「KOBE BUSINESS EXPO2025」

という取り組みを打ち出しました。

万博会期中に全国商工会議所などの神戸への視察来訪を呼びかけ、両地域のビジネス交流や、中小企業のビジネス創出に繋げる考えです。また、神戸単独ではなく、神戸市以西も含めた空港需要、観光需要の開拓に向けて、都市間連携にも力を入れます。

私自身、昨年秋には、神戸空港就航都市訪問の第一弾として青森にトップセールスを行いました。今年も、攻めの姿勢で、Welcome to KOBEを合言葉に、国内外に精力的にプロモーションを行っていく所存です。

また、今後、三宮再整備など神戸のまちづくりが一段と進む中、2030年前後の神戸空港の国際定期便就航を確実なものとし、その効果を最大限に発揮させるためにも、南北アクセスの整備など都市機能強化に向けた提案や具現化にも力を注ぎます。

これらの活動の全ては、私が会頭就任以来、スローガンに掲げている「行きたい、住みたい、働きたい、一步先に行く元気な神戸へ」の実現を目指すものです。言う限りは実現させなければならないと強く思っています。また、それは、足元の今や比較的近い将来だけではなく、未来を担う若い人にとって、神戸が魅力的であってほしい「For Future KOBE」という考えに基づきます。

その思いを胸に、会員企業はじめ関係の皆様とスクラムを組み、商工会議所活動に全力で取り組んでまいりますので、本年も何卒、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭所感

行きたい、住みたい、働きたい、
一步先に行く元気な神戸へ
— For Future KOBE —

神戸商工会議所 会頭
川崎博也

